

奈良時代の鏡を発見！－祭祀に使用か！？・栗東市高野遺跡－

公益財団法人滋賀県文化財保護協会では、滋賀県からの依頼により、六地蔵地区ほ場整備工事に伴う栗東市高野遺跡の発掘調査を平成 30 年度から実施しています。

令和元年度調査において銅鏡（小型海獣葡萄鏡）が出土しました。このたび、保存処理を終え、公開することができるようになりましたので、その概要を発表します。

一般公開：8月7日（土）から8月31日（火）まで
滋賀県埋蔵文化財センター 1 階
レトロレトロの展覧会 2021 栗東市高野遺跡の発掘成果
「東海道を探る PART 2 すがたをあらわした古代のハイウェイ」内
（会期中無休、午前 9 時～午後 5 時、入場無料）

◆高野遺跡発掘調査について

1. 調査の経緯

高野遺跡は、縄文時代から近代にかけての集落遺跡です。公益財団法人滋賀県文化財保護協会では、滋賀県からの依頼により、六地蔵地区ほ場整備工事に伴う高野遺跡の発掘調査を平成 30 年度から実施しています。現在も調査を継続して実施しています。

2. 遺跡の概要とこれまでの発掘調査の状況（図 1・図 2）

高野遺跡は、旧野洲川が形成した扇状地の扇頂部に位置し、東西南北約 1 km の範囲に広がっています。昭和 57 年（1982 年）以降、複数回におよぶ発掘調査が行われ、縄文時代前期から近代にかけての遺構・遺物が発見されています。特に、古墳時代前期を中心に県内でも有数の大規模集落が形成されていたことが明らかになっています。

当協会が平成 30 年度から実施している発掘調査では、古墳時代前期・後期の竪穴建物跡や奈良時代の掘立柱建物跡などを検出しました。また、古代東海道⁽¹⁾推定位置からは、古代東海道の両側溝と考えられる溝跡を検出しました。

3. 出土した^{かいじゅうぶどうきょう}海獣葡萄鏡について

(1) 出土状況について（図 3、写真 1～3）

令和元年度調査において、奈良時代の溝跡（幅約 1.0m、深さ約 0.5m）から、海獣葡萄鏡が出土しました（図 3・写真 1～3）。出土した時点で、著しく劣化が進行していたことから、これ以上の劣化を防ぐことを目的として、令和 2 年度に保存処理を実施しました。

この溝跡は、古代東海道から約 100m 南に位置していて、鏡のほかに須恵器や土師器が出土しています。

(2) 海獣葡萄鏡の特徴

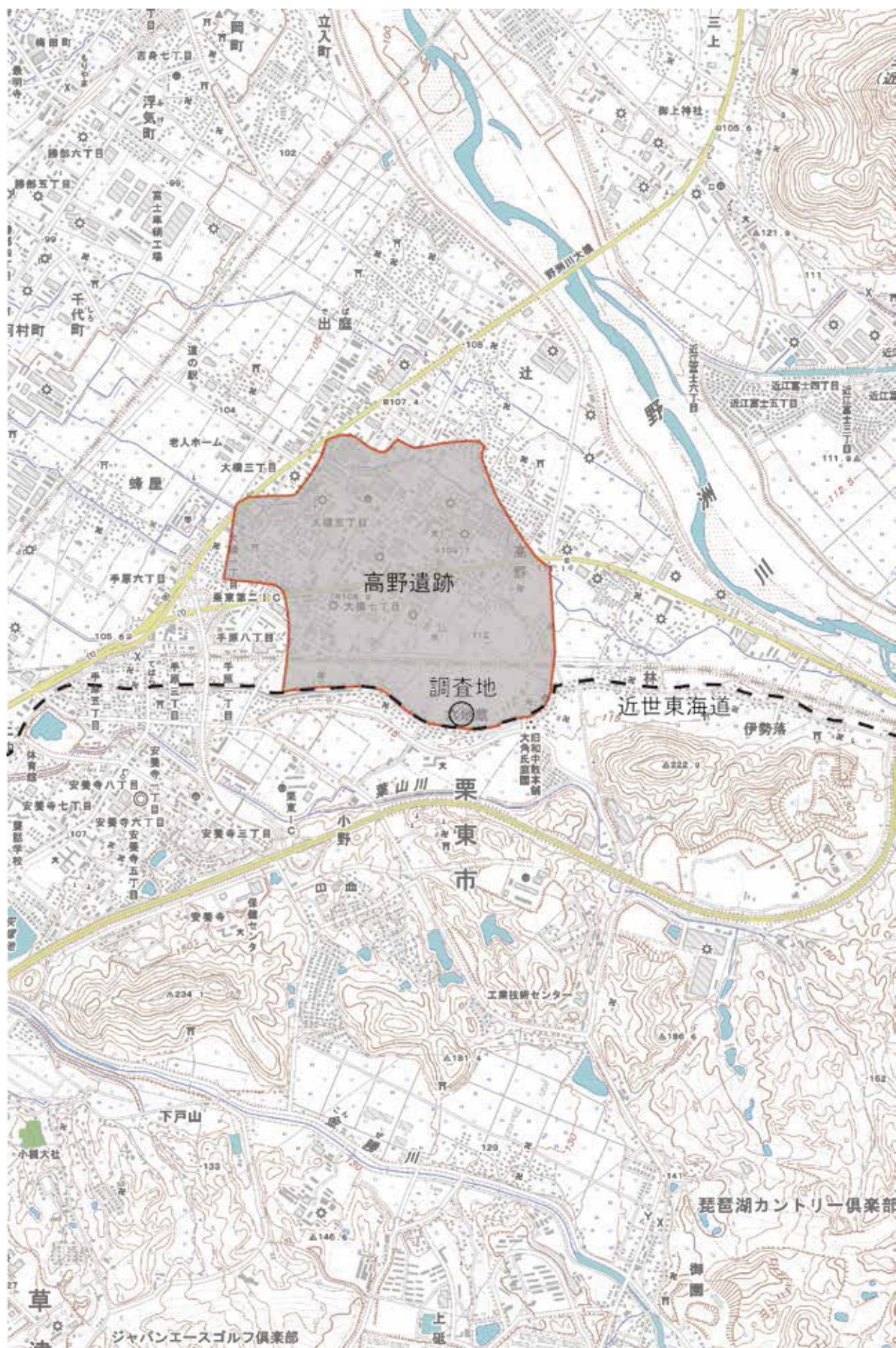


図1 遺跡の位置 (1:25,000)

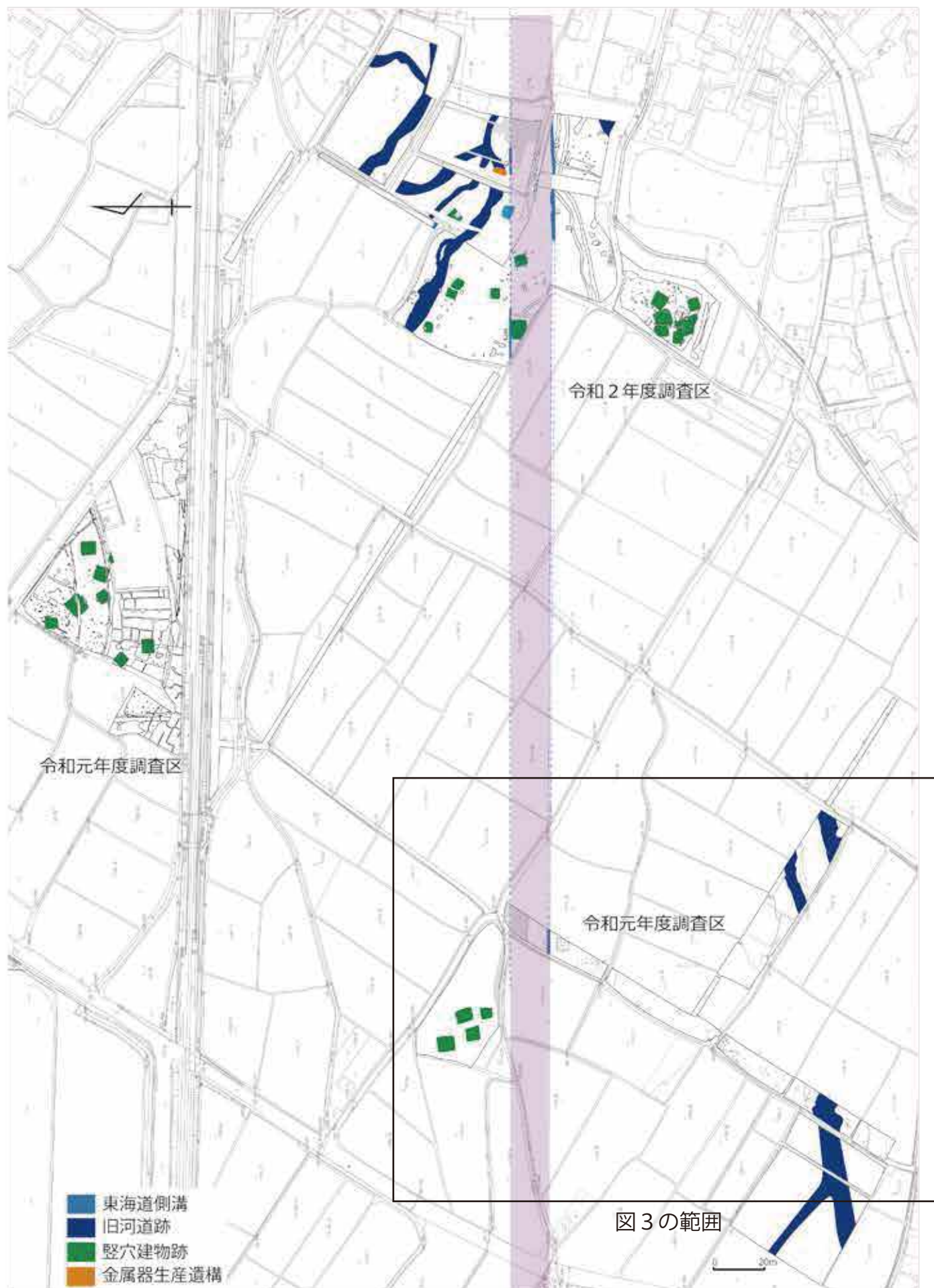


図2 遺構配置図 (1:2,000)

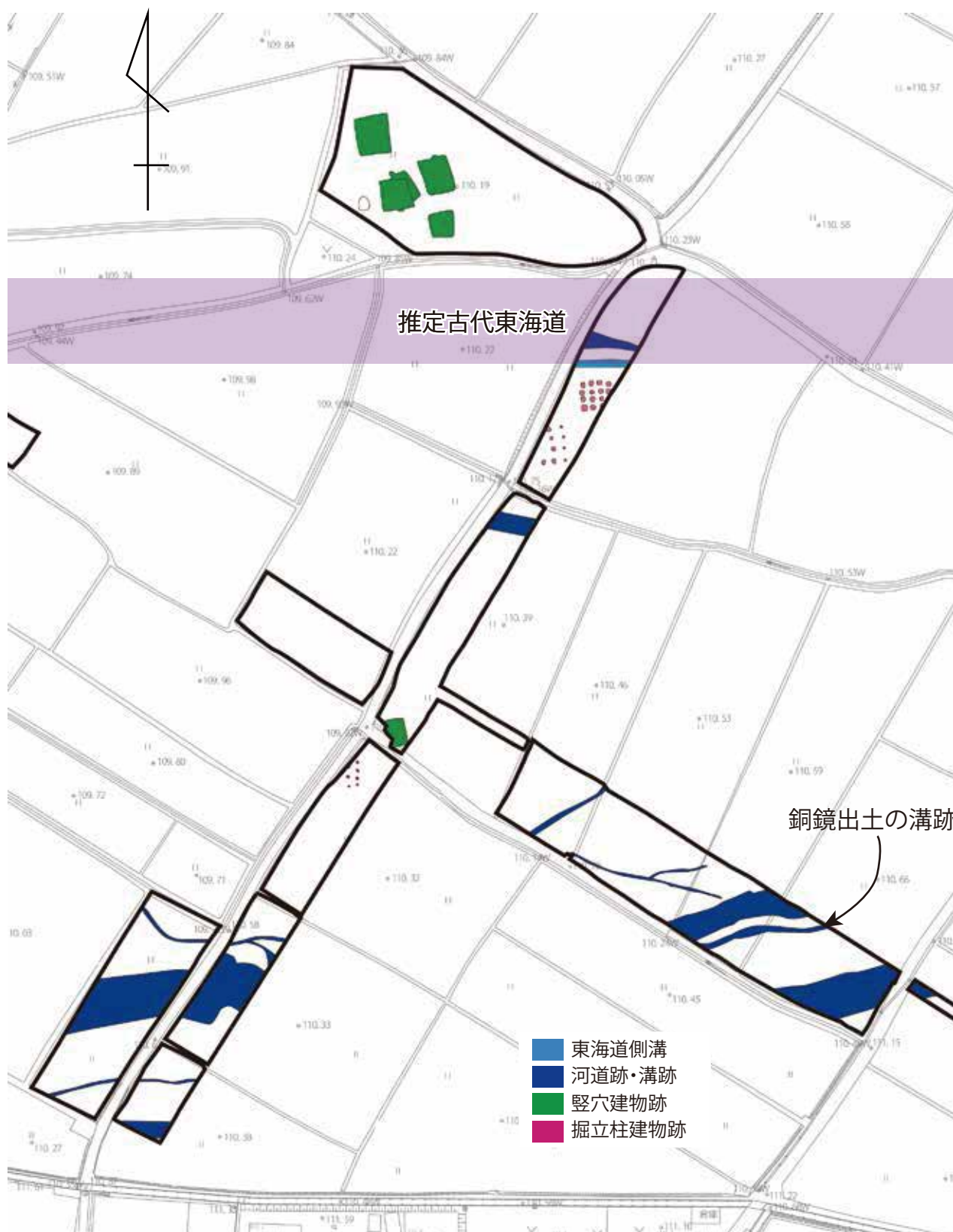


図3 令和元年度調査区遺構配置図 (1:1,000)

出土した海獣葡萄鏡は面径約 6.2 cm で、鏡背⁽²⁾は内側から、紐を通すための穴があげられている鈕^{ちゆう}、内区^{ないく}、外区^{がいく}で構成されています（図 4 参照）。一部欠損をしているものの、文様を読み取ることができます。鈕は伏した獣の姿を模し、内区は鈕の周囲に海獣^{かいじゆう}⁽³⁾が 4 体と簡略化された 6 個の房を持つ葡萄唐草文^{ぶどうからくさもん}⁽⁴⁾で構成されます。外区は、欠損のため明確ではないものの、鳥や唐草文で構成されています。鏡面は錆に覆われています。

同型鏡⁽⁵⁾例としては、隅田八幡宮 2 号経塚^{すだはちまんぐう 2 号きやうづか}（和歌山県橋本市）、西ノ辻遺跡^{にしのかじ}（大阪府東大阪市）、藤原京右京五条四坊北西坪^{ふじわらきやうきやうごじやうよんぽうほくせいづぼ}（奈良県橿原市）、大福遺跡^{だいふく}（奈良県桜井市）の各遺跡から出土した鏡が挙げられます。これらの同型鏡の原型鏡^{げんけいきやう}⁽⁵⁾は見つかっていません。

5. これまでの出土例と出土鏡の意味

(1) 滋賀県内の事例について（図 4）

これまで滋賀県内では、大津市の東光寺遺跡^{とうこうじ}、太鼓塚遺跡^{たいこづか}の 2 遺跡で見つかっていました。高野遺跡出土のものは、県内で 3 例目という貴重な発見となりました（図 4）。

東光寺遺跡では、溝跡から出土しています。面径は 6.4 cm で、同じ溝跡から須恵器、土師器、製塩土器のほか、フイゴ羽口^{はぐち}や鉄滓^{てつさい}といった鍛冶関係遺物が出土しています。土器の年代観から、7 世紀後半ごろのものと考えられます（滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会 2002）。

太鼓塚遺跡では、11 号墳の石室から出土しています。面径は 6.3 cm で、同じ石室から、古墳時代の須恵器や奈良時代の銅鈴などが出土しています（大津市教育委員会 1992）。

(2) 全国的事例について（表 1）

海獣葡萄鏡は中国唐代（618 年～907 年）に製作された銅鏡の一種で、面径によって大型（25 cm 以上）、中型（10～25 cm）、小型（10 cm 未満）に分けられます。大型海獣葡萄鏡は、香取神宮^{かとりじんぐう}（千葉県香取市）や春日大社^{かすがたいしゃ}（奈良県奈良市）などの社寺が所蔵し、伝世してきたものです。中型海獣葡萄鏡は、高松塚古墳^{たかまつづかこふん}（奈良県高市郡明日香村）や杣之内火葬墓^{そまのうちにやうぼ}（奈良県天理市）などの古墳や墓から出土しています。また、中型海獣葡萄鏡は同型鏡が多いことで知られています。

小型海獣葡萄鏡は、藤原京右京五条四坊北西坪東側溝^{へいじやうきやうきやうくじやうおおじ}や平城京^{へいじやう}右京九条大路北側溝（奈良県大和郡山市）などの溝跡や川跡から出土したり、祭祀^{さいし}に用いられる小型の土器などと一緒に出土したりすることが多いため、水辺の祭祀に用いられたと考えられています。小型海獣葡萄鏡は、奈良時代における祭祀に関わる重要な遺物と考えられていますが、出土品の特徴から、鏡面が磨かれず、また、文様の崩れたものが多いことから、文様が雑多なもので事足りると考えられていたようです。

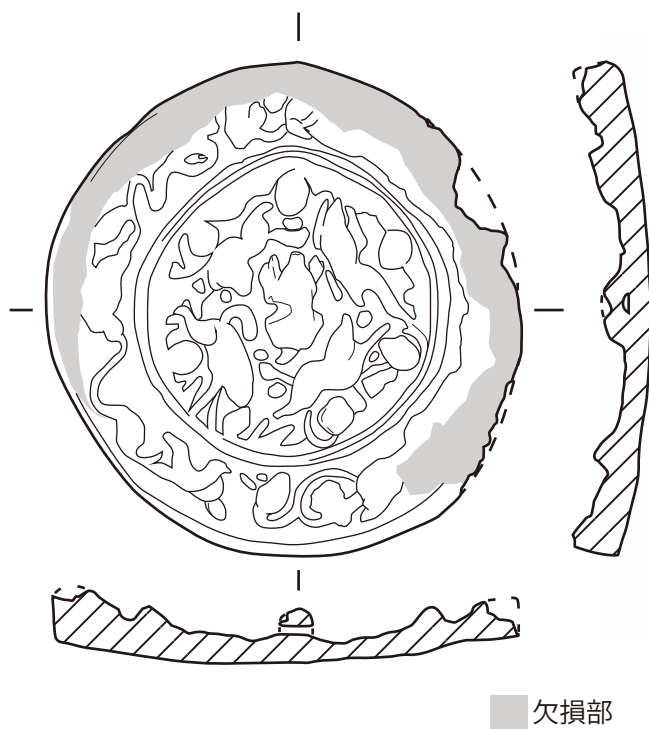
小型海獣葡萄鏡は、出土品や伝世品を含め、山形県から宮崎県にかけて見つかっています。面径から 2 種類に分けられ、面径 6 cm 前後以上のものと、内区のみとされる面径 3 cm 前後のものがあります（杉山 2003）。

面径 6 cm 前後以上の出土品は全国で 30 面以上あり、都のあった奈良県では 7 面、次いで祭祀遺跡として知られている寺家遺跡^{じけ}（石川県羽咋市）などがある石川県で 5 面、そして滋賀県の 3 面と続きます（表 1）。一緒に出土した土器の年代観などから、ほとんどが飛鳥時代か

	小型海獣葡萄鏡出土遺跡	所在地	出土遺構（箇所）	面径(cm)
1	川前2遺跡(2次)	山形県山形市	竪穴住居床面直上	(6.20)
2	松ノ木台2号墳	千葉県富里市	方墳周溝	6.20
3	瀬戸鈴耕地遺跡	千葉県印西市	畑	6.05
4	伝どんどん山出土	埼玉県上尾市	-	-
5	武蔵国分寺跡	東京都国分寺市	ピット群埋土	5.95
6	野伏西遺跡	東京都新島村式根島	畑？	6.20
7	芝宮遺跡群	長野県佐久市	溝	6.20
8	日詰遺跡	静岡県賀茂郡南伊豆町	不詳	5.60
9	天の川遺跡	静岡県牧之原市	ピット埋土	6.40
10	寺家遺跡	石川県羽咋市	祭祀遺跡（竪穴住居）	6.30
11	寺家遺跡	石川県羽咋市	祭祀遺跡	6.10
12	寺家遺跡	石川県羽咋市	祭祀遺跡	-
13	シラスナ遺跡	石川県輪島市	不明	6.05
14	藤江B遺跡	石川県金沢市	-	-
15	出目地古墳	岐阜県不破郡垂井町	不明	6.10
16	ユルベ浜	三重県度会郡大紀町	採集品	9.40
17	金剛坂の里	三重県多気郡明和町	経塚？	8.95
18	東光寺遺跡	滋賀県大津市	溝	6.40
19	太鼓塚遺跡11号墳	滋賀県大津市	石室	6.30
20	高野遺跡	滋賀県栗東市	溝	(6.20)
21	周山廃寺	京都府京都市右京区	石敷上	5.90
22	藤原京右京五条四坊	奈良県橿原市	溝	6.50
23	大福遺跡	奈良県桜井市	包含層	6.10
24	谷公園遺跡	奈良県桜井市	表採	5.89
25	平城京九条大路	奈良県大和郡山市	溝	5.90
26	松山古墳	奈良県大和郡山市	古墳石槨内	9.80
27	松山古墳	奈良県大和郡山市	古墳石槨内	9.70
28	金峯山頂遺跡	奈良県吉野郡天川村	不詳	5.60
29	西の辻遺跡	大阪府東大阪市	河川跡	6.30
30	高木遺跡	大阪府松原市	整地土	(8.00)
31	隅田八幡宮2号経塚	和歌山県橋本市	経塚	6.30
32	勅使川窯跡	兵庫県宝塚市	須恵器窯崩落土	5.90
33	二本松古墳	兵庫県神戸市	-	9.40
34	川入中撫川遺跡	岡山県岡山市	溝	6.20
35	大宰府（160次）	福岡県太宰府市	土壇	5.80
36	真名子古墳	福岡県八女市	-	9.90
37	本庄古墳群	宮崎県東諸県郡国富町	-	9.90

表1 小型海獣葡萄鏡A類出土遺跡（杉山 2003、飛鳥資料館 2006を基に加筆）

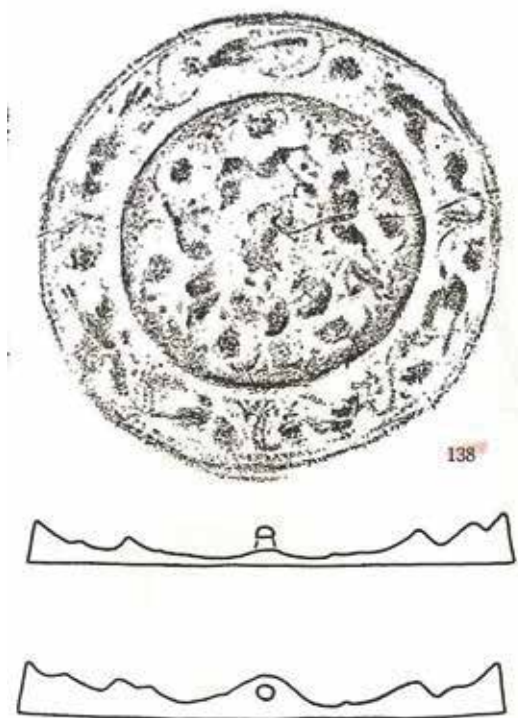
※面径（ ）は推定値



高野遺跡実測図

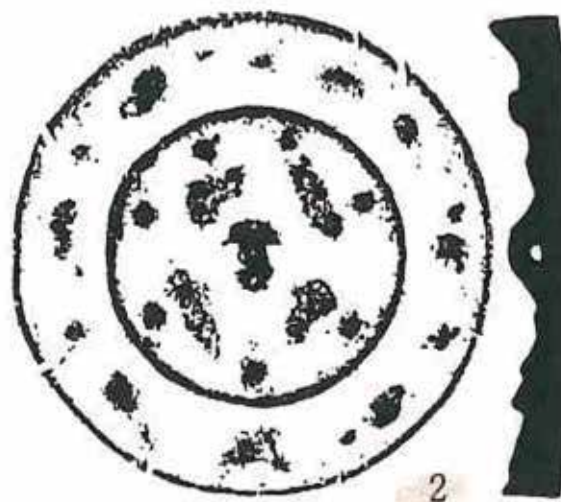


高野遺跡 3 次元計測図

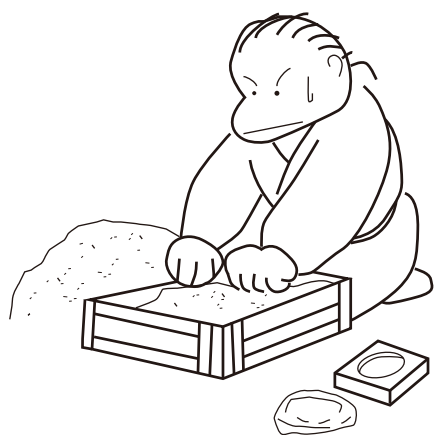


東光寺遺跡

(滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会 2002)



太鼓塚遺跡 11 号墳
(大津市教育委員会 1992)



① 鑄型づくり

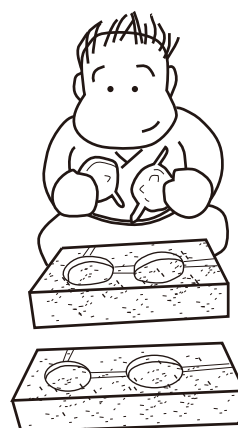


② 金属溶解

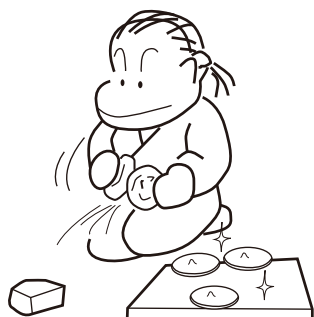


鑄型

③ 鑄造



④ 型ばらし



砥石

⑤ 研磨



⑥ 検査

図5 同時代の鑄造過程イメージ図（当協会職員作成）

ら奈良時代にかけて（7世紀末～8世紀中頃）製作されたと考えられます。

(3) 高野遺跡出土鏡の意味

高野遺跡出土の小型海獣葡萄鏡も溝跡から出土していることから、従来考えられているように水辺の祭祀に用いられたと考えられます。また、他の出土品と同様に鏡背の文様の崩れが進んでおり、鏡の文様が重要視されていないこと、鏡面が磨かれていないことから、祭祀のために作られた鏡と考えられます。祭祀が行われた時期としては、同じ溝跡から出土した土器の年代観から、奈良時代中期（8世紀中頃）と考えることができます。

また、今回の発見は滋賀県内では3例目となる大変貴重な発見となり、栗東市域でははじめての海獣葡萄鏡の出土となります。

小型海獣葡萄鏡は、出土遺跡の性格から、畿内中央の役所と関係の強い工房で鑄造されたと考えられています（杉山 2003）。踏返し鑄造⁽⁵⁾による鑄型の収縮を考慮すると、比較的早い段階の鑄造とも考えられ、畿内で製作された可能性もあります。そのため、高野遺跡の周辺に居住した人々の中にも、畿内との関わりがあった人物がいたのかもしれませんが。高野遺跡の範囲内には古代東海道が通過しており、畿内に道を通じて交流があったのだと推測できます。

高野遺跡の周辺には、飛鳥時代から平安時代にかけての寺院跡が見つかった^{てはら}手原遺跡（栗東市手原）や、奈良時代の^{くりたぐんやくしよ}栗太郡役所と考えられる^{おか}岡遺跡（栗東市岡）、役所に関わる人々がいたと考えられる^{かみとやま}上砥山遺跡（栗東市上砥山）などでも同時期の水辺の祭祀の痕跡が見つかっています。そういった場所に関わる人々との繋がりも想定ができます。また、高野遺跡の古代東海道の近接地には倉庫と考えられる掘立柱建物跡があることから、物資の集積地であった可能性があります。そのことから、高野遺跡にあった集落は、農耕集落という面だけではなく、郡衙や国府などの役所とのつながりがある特殊な集落が形成されていたと考えられます。

参考資料

- ・飛鳥資料館(1999)『鏡を作る。海獣葡萄鏡を中心として』
- ・飛鳥資料館(2006)『飛鳥の金工 海獣葡萄鏡の諸相』
- ・大津市教育委員会(1992)『太鼓塚遺跡発掘調査報告書』
- ・滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会(2002)『出土文化財管理業務報告書』
- ・杉山洋(2003)『唐式鏡の研究 飛鳥・奈良時代金属器生産の諸問題』鶴山堂
- ・中村潤子(1999)『鏡の力 鏡の想い』大巧社
- ・兵庫県立考古博物館(2017)『千石コレクション-鑑鏡編-』

用語解説

- (1) **古代東海道** 古代の広域行政区画の一つ。また、その区域に設置されたとされ、天武天皇のころ(7世紀後半)にほぼ成立していた。成立時は東国に抜けていたが、延暦3年(784年)の長岡京遷都以降に近江国を通過するようになる。
- (2) **鏡背・鏡面** 鏡の光を反射する面を鏡面、その裏面で文様がある面を鏡背という。
- (3) **海獣** 空想上の鳥獣のこと。獅子や麒麟などの瑞獣・神獣が使われる。
- (4) **葡萄唐草文** 葡萄は果物のブドウを指し、唐草文はツルや茎、葉などを表す。葡萄と唐草を組み合わせでできた文様が葡萄唐草文となる。葡萄を豊穰と多産のシンボルとする西方の思想を取り入れた唐の女性の多子多福の祈りが込められた文様と考えられている(中村
- (5) **同型鏡・原型鏡・踏返し鑄造** 原型となる鏡から型取りした鑄型を用いる鑄造法という。この原型となる鏡が原型鏡になる。原型鏡があれば、同じ文様の鏡を何枚も作ることができ、これが同型鏡となる。型取りした鑄型は焼き締めるため、原型鏡よりもなる。踏返し鑄造を多数回経た鏡は、文様が崩れ、面径も小さくなる。